

オオクマ電子株式会社

熊本県熊本市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

IoT時代の新たなビジネスとして、医療現場向けの自動化装置の開発やコンサルティング業務を展開

- 「使用済注射薬自動認識システム（SPASER）」により医療現場向けソリューション・ビジネスを展開
- SPASERから得たビッグデータを活用した医療コンサルティングサービスを展開し、付加価値を創出
- 海外の製品規格や市場ニーズに適合した新製品を開発するなど、海外展開に向けた取組を本格化

企業基本情報

所在地	熊本県熊本市東区长嶺西1丁目8番104号
電話/FAX	096-382-8110/096-384-4922
URL	http://okm.co.jp/
代表者	代表取締役社長 大隈 恵治
設立	1973年
資本金	5,000万円
従業員数	40人



会社概要

同社は、液晶パネル検査装置を中心とした半導体・エレクトロニクス分野を事業の柱とする企業だが、近年はIoT時代における新規ビジネスとして医療分野への展開に注力。「使用済注射薬自動認識システム（SPASER）」の開発、販売のみならず同装置によって収集されたビッグデータを活用した医療コンサルティングサービス等を順次展開。また、米国向けの製品開発も手がけるなど、海外展開に向けた取組を開始。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

半導体分野で培った高度な技術を活かした医療機器開発

従来、病院の看護師らの手作業で実施してきた手術用薬品、消耗品の仕分け・記録作業を自動化する使用済注射薬自動認識システム「SPASER（スパーサー）」を開発。膨大かつ多様な形状の手術用薬品、消耗品等の自動識別やデータ管理には非常に高度な技術が要求されるが、高度な画像処理技術とロボット制御技術を活かし、10年かけて本技術を確立。SPASERにより保険の未請求も防げるとともに、自動化による作業負担減と感染症防止など、医療現場の様々な課題に対応可能。



「SPASER内のピッキング・画像処理工程の様子」

ビッグデータを活用したビジネスモデル構築

全国の顧客に販売したSPASERから収集したビッグデータを活用し、各病院の経営状況を比較分析するとともに、地道な製品開発や営業活動の過程で得た医療分野に関する知見に基づき、医療コストの最適化を目的としたコンサルティングサービスを実施。装置販売のみならず、経営相談等のアフターフォローも含めた新たなビジネスモデルを構築し、高い付加価値を創出。SPASERの導入実績として、手術室の稼働率30%アップや年間840万円のコスト削減等の経営改善効果を実現。



「米国の医療系展示会への出展風景」

米国に現地法人を設立し、現地ニーズに合わせた製品を開発

開発したSPASERについて、米国への事業展開を図るため、サンディエゴに現地法人を設立し、現地ニーズや規格に適合した新製品「在庫管理システム 'Cumulus'（キュームラス）」を開発し、販売を開始。

今後は現地企業とのアライアンスにより米国で販売実績を蓄積し、現地の医療コンサルティング会社と連携したビジネスモデル構築を図りつつ、欧州等の他地域への展開を図るなど更なる海外ビジネス拡大を目指す。



「在庫管理システム（Cumulus）」